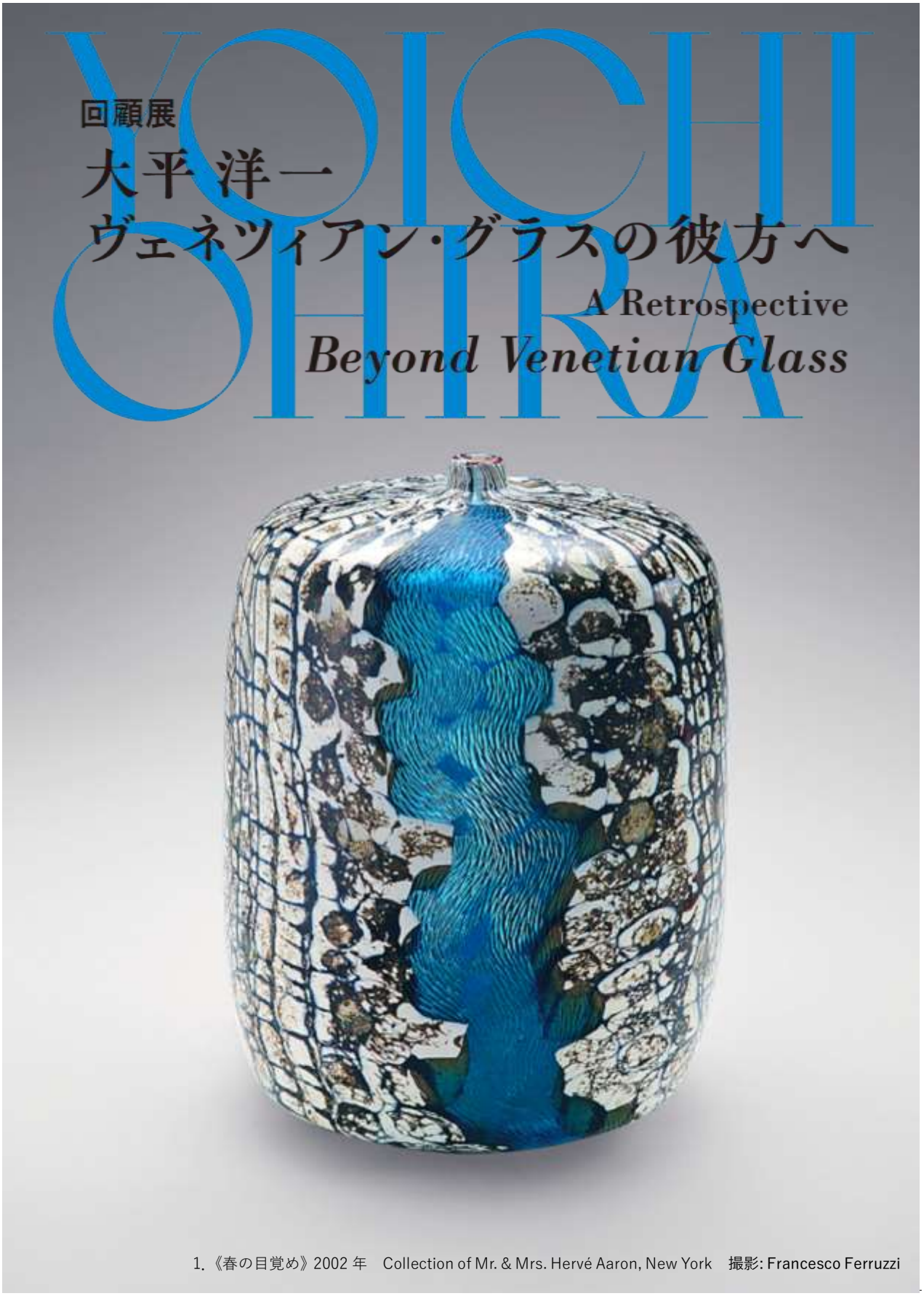
無断複製・転載禁止

PRESS RELEASE

プレスリリース　2024.01.29



1.《春の目覚め》2002 年　Collection of Mr. & Mrs. Hervé Aaron, New York　撮影: Francesco Ferruzzi

お問合せ
富山市ガラス美術館　〒930-0062 富山県富山市西町 5 番 1 号
Tel 076-461-3100　Fax 076-461-3310
Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp　Web toyama-glass-art-museum.jp

TOYAMA キラリ 富山市ガラス美術館 TOYAMA GLASS ART MUSEUM

展覧会概要

展覧会名　回顧展：大平 洋一　ヴェネツィアン・グラスの彼方へ

会　　期　2024 年 3 月 9 日（土）～ 6 月 23 日（日）

会　　場　富山市ガラス美術館 2･3 階　展示室 1－3　（〒930-0062 富山県富山市西町 5 番 1 号）

主　　催　富山市ガラス美術館

特別協力　バリー・フリードマン・ギャラリー

後　　援　イタリア文化会館、北日本新聞社、富山新聞社、
北日本放送、富山テレビ放送、チューリップテレビ

開場時間　9：30 – 18：00 (金・土曜日は 20：00 まで、入場は閉場の 30 分前まで)

閉 場 日　第 1・3 水曜日、3/27、5/8（ただし 3/20、5/1 は開場）

観 覧 料　一般 1,200 円（1,000 円）　大学生 1,000 円（800 円）

※（　）内は 20 名以上の団体　※本展観覧券で常設展も観覧可

【前売券取扱い】　一般 1,000 円のみ

アスネットカウンター　Tel 076-445-5511 / TOYAMA キラリ 1 階総合案内

※下記に該当する方は観覧料が無料となります。

〇高校生以下の方 〇富山市に住所登録がある 70 歳以上の方

〇お出かけ定期券またはシルバーパスカご提示の 65 歳以上の方

〇身体障がい者手帳、療育手帳、または精神障がい者保健福祉手帳をご提示の方及びその介助者（1 名）〇団体引率者

BARRY FRIEDMAN LTD

ISTITUTO italiano DI CULTURA TOKYO

QR コードを読み込むことで、本展覧会の概要を多言語にてご覧いただけます。
（日本語、英語、簡体字、繁体字、ハングル、仏語、独語、伊語に対応）

QR Translator

お問合せ
富山市ガラス美術館　〒930-0062 富山県富山市西町 5 番 1 号
Tel 076-461-3100　Fax 076-461-3310
Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp　Web toyama-glass-art-museum.jp

TOYAMA キラリ 富山市ガラス美術館 TOYAMA GLASS ART MUSEUM

展覧会について

本展は、ガラス作家・大平洋一(おおひらよういち)氏(1946-2022)を紹介する、国内初となる大回顧展です。小説を通してガラスに惹かれた大平は、華麗なるガラス芸術で名高いヴェネツィアに魅了され、作家となることを目指して 26 歳の時に渡欧します。500 年以上の栄華を誇るヴェネツィアン・グラスの伝統と歴史の厚みに圧倒された大平は、自ら考案した作品の構想を元に、巨匠たるガラス職人との協働作業で作品を創り上げるスタイルに自身の進むべき道を見出しました。企業デザイナーを経て独立以降は、透明ガラスと不透明ガラスを巧みに組み合わせた意匠によって自身の作風を確立します。大平は、ローマ時代のモザイク・ガラスに着想を得ながら、東アジア圏に見られる陶磁器や漆器の形を取り入れるなど、西洋の古典的な美の規範と東洋の工芸的な要素を巧みに調和させています。ヴェネツィアン・グラスの歴史を隅々まで吸収した上で、日本とヴェネツィア双方の文化や美意識の融合を目指した大平は、ついにその厚い伝統を乗り越え、普遍的な美しさをもつ独自のガラス表現へと到達したのです。本展では、国内外のガラス作品約 150 点を中心に、緻密なスケッチやドローイング、大平が研究のために自ら収集したガラス製造関連資料を併せて展示します。現代ガラスの粋を集めた作品の数々を、ぜひご覧ください。

作家略歴

大平　洋一（1946-2022）

1946 年	東京都生まれ
	在学中、五木寛之の小説「霧のカレリア」を読んでガラスに魅了される
1969 年	桑沢デザイン研究所卒業
1969-71 年	各務クリスタル製造所（現カガミクリスタル株式会社）にて勤務
1973 年	ガラス作家を志し、ガラスの本拠地であるヴェネツィアを目指してイタリアへと渡る
	大学在学中、彫刻専門のガラス工房フチーナ・デッリ・アンジェリにて、ピカソやシャガールらと制作を行ったエジーディオ・コスタンティーニの助手を務める
1978 年	ヴェネツィア国立美術アカデミー、アカデミア・ディ・ベッレ・アルティ彫刻科を卒業
1987 年	ムラーノ島のガラス工房であるデ・マヨ工房の工芸部門デザイナーに就任
1990－	独立後、個人のガラス作家としてヴェネツィアを拠点に活動
	以降、イタリアやアメリカ、日本で個展やグループ展を多数開催
2001 年	ラコウ・コミッション受賞、コーニング・ガラス美術館
2009 年	モエ・ヘネシー・パビリオン・オブ・アート＆デザイン、ロンドン賞
2010 年末	帰国
2022 年	東京にて没

お問合せ
富山市ガラス美術館　〒930-0062 富山県富山市西町 5 番 1 号
Tel 076-461-3100　Fax 076-461-3310
Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp　Web toyama-glass-art-museum.jp

展覧会の見どころ

1．没後初となる大回顧展

本展は 2022 年に大平 洋一氏が没して以降、初めて開催される大規模な回顧展となります。ヴェネツィアを拠点に約 38 年間活躍した氏の作品は、海外を中心に高い評価を得ており、メトロポリタン美術館やヴィクトリア・アンド・アルバート博物館など各地の著名な美術館に収蔵されています。その作品の大部分が海外に所蔵されていることから、国内でまとまった形で作品を見ることができる機会は非常に稀です。今回は、ニューヨークに位置するバリー・フリードマン・ギャラリーの特別協力を得て、貴重な個人蔵の作品を中心にご紹介します。企業デザイナーとして活躍した 1980 年代から、ガラス作家として円熟した表現に達した 2000 年代に至る作品が一堂に会することで、大平独自のガラス芸術がどのように形作られてきたのか、創作の変遷を追います。

2．緻密で色彩豊かな作品の数々をご紹介

自身のガラス表現の活路を、優れた技をもつガラス職人達との協働制作に見出した大平は、1500 点以上に及ぶ数々の作品を生みだしてきました。大平は、作品のフォルムや色ガラスの指定など細部に至る内容をドローイングに描き、吹きガラスの現場で職人へ指示を出しながら制作を監修し、作品を完成させています。繊細で透明なヴェネツィアン・グラスのイメージを覆す、不透明なモザイク・ガラスによる色彩豊かな作品には、西洋の古典的な美の規範と東洋の工芸的な要素が一つに合わさっています。ガラスの歴史を隅々まで吸収した上で、日本とヴェネツィア双方の文化や美意識を融合しようと独自の表現を目指した大平の、緻密で色彩豊かな作品の数々をご紹介します。

3．ヴェネツィアン・グラス関係の貴重な資料にも注目

ルネサンス期に、海洋貿易の中心地として栄華を極めた地、ヴェネツィア。そこに位置するムラーノ島では、経済の繁栄を背景に、1450 年頃に開発された透明なクリスタルガラスを契機として、レース技法や乳白色ガラスなど多種多様なガラス製品が編み出されてきました。徒弟制度によるガラス工房や、伝統に裏打ちされた確かな技をもつガラス職人達に圧倒された大平は、ヴェネツィアン・グラスの膨大な歴史やその製造方法について知るために、自ら書籍を紐解き研究を重ねます。本展では、大平が帰国前に自ら収集した、アントニオ・ネリ著『ガラス製造術』や、ディドロ、ダランベール編著『百科全書』など、17-18 世紀のガラス製造方法が記された貴重な書物等の資料を併せて展示し、大平が思いを馳せた深遠なヴェネツィアン・グラスの世界を垣間見ます。

お問合せ
富山市ガラス美術館　〒930-0062 富山県富山市西町 5 番 1 号
Tel 076-461-3100　Fax 076-461-3310
Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp　Web toyama-glass-art-museum.jp

出品作品（予定）

2

3

4

5

2.（左）《モザイク・ガラス「輪」》1996 年、（右）《モザイク小ガラス瓶「謝肉祭のマント」》1996 年
富山市ガラス美術館蔵　撮影：末正真礼生
3.《風に揺れる黄色の花》1998 年　Collection Mr. & Mrs. Hervé Aaron, New York
4.《ゴブレット”野いちご”》1994 年、富山市ガラス美術館蔵　撮影：斎城卓
5.《ゴブレット”カラメアＢ”》1995 年、富山市ガラス美術館蔵　撮影：斎城卓

お問合せ
富山市ガラス美術館　〒930-0062 富山県富山市西町 5 番 1 号
Tel 076-461-3100　Fax 076-461-3310
Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp　Web toyama-glass-art-museum.jp

6

7

8

9

6.《レースガラス・ゴブレット》17-18 世紀　イタリア　サントリー美術館蔵
7.《溶岩の流れ N. 22》2005 年　Collection Barry Friedman, New York
8.《雨の日》 2008 年　Collection Giulio Alessandri, Venice
9.《窓 N.27》 2007 年　Collection Barry Friedman, New York

お問合せ
富山市ガラス美術館　〒930-0062 富山県富山市西町 5 番 1 号
Tel 076-461-3100　Fax 076-461-3310
Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp　Web toyama-glass-art-museum.jp

10

11

10.《クリスタッロ・ソンメルソ N.49-彫刻》2008 年　Collection Barry Friedman, New York
11.《ヴェネツィアの運河 N.3》 2009 年　Collection Barry Friedman, New York
1, 3, 7-11　Courtesy Barry Friedman Gallery

お問合せ
富山市ガラス美術館　〒930-0062 富山県富山市西町 5 番 1 号
Tel 076-461-3100　Fax 076-461-3310
Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp　Web toyama-glass-art-museum.jp

関連プログラム

開会式
日　時：3 月 8 日（金）16：00 から
会　場：富山市ガラス美術館　2 階ロビー、2･3 階展示室 1-3
受付は 15：30 から行います。
開会式終了後は関係者及びマスコミ向けの内覧会を行います。（開会式終了～18：00 まで）

土田館長によるスペシャルトーク
土田ルリ子館長が、作家・大平 洋一氏の人物像などについて、スライドで詳しくご紹介します。
日　時：５月１８日（土）14：00から
場　所：富山市ガラス美術館　2 階ロビー
事前申込不要、参加無料

学芸員によるギャラリートーク
担当学芸員が展覧会や出品作品について、わかりやすく解説します。
日　時：３月２３日（土）、４月２０日（土）、５月２５日（土）、６月２２日（土）
　　各回 14：00から
場　所：富山市ガラス美術館　2･3 階展示室 1-3
事前申込不要、参加無料

記念講演会（予定）
日　時：未定　詳細が決まり次第、美術館公式ウェブサイトにてお知らせいたします。
事前申込不要、参加無料

※展示室への入場には、本展観覧券が必要です。
※関連プログラムの詳細は美術館公式ウェブサイトやSNSなどでお知らせします。
※プログラムは都合により中止、または変更となる場合があります。
　最新の情報は美術館公式ウェブサイトをご確認ください。

お問合せ
富山市ガラス美術館　〒930-0062 富山県富山市西町 5 番 1 号
Tel 076-461-3100　Fax 076-461-3310
Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp　Web toyama-glass-art-museum.jp

美術館概要

12. 富山市ガラス美術館　外観

13. 富山市ガラス美術館　内観

富山市ガラス美術館は、「ガラスの街とやま」を目指したまちづくりの一環として、2015 年 8 月に開館しました。本美術館は富山市立図書館本館などが入居する複合施設「TOYAMA キラリ」内に整備され、富山市の中心市街地に位置することから、文化芸術の拠点としてだけでなく、まちなかの新たな魅力創出の役割を担ってきました。

世界的な建築家の隈研吾氏が設計を手掛けた建物は、御影石、ガラス、アルミの異なる素材を組み合わせ、表情豊かな立山連峰を彷彿とさせる外観となっています。また、内部は富山県産材のルーバー（羽板）を活用した開放的な空間となっています。

常設展として、アメリカの現代ガラスの巨匠、デイル・チフーリ氏によるインスタレーション作品を展示する 6 階「グラス・アート・ガーデン」のほか、所蔵作品を紹介する 4 階「コレクション展」や 2 階から 4 階の展示室壁面などに富山ゆかりの作家が制作した作品を展示する「グラス・アート・パサージュ」があります。また企画展では 1950 年代以降のグラス・アートを中心に、様々な美術表現を紹介しています。

交通アクセス

［ 富山駅より ］
〇徒歩 20 分 〇市内電車南富山駅前行に乗り、「西町（にしちょう）」下車、徒歩 1 分
〇市内電車環状線に乗り、「グランドプラザ前」下車、徒歩 2 分
（富山駅から「西町」「グランドプラザ前」まで約 10 分）

［ 富山空港より ］
〇地鉄バス（富山空港線）「総曲輪（そうがわ）」下車、徒歩 4 分

お問合せ
富山市ガラス美術館　〒930-0062 富山県富山市西町 5 番 1 号
Tel 076-461-3100　Fax 076-461-3310
Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp　Web toyama-glass-art-museum.jp

美術館公式 SNS アカウント

Instagram

アカウント名
toyamaglassartmuseum

Facebook

アカウント名
toyamaglassartmuseum

Youtube

チャンネル名
ToyamaGlassArtMuseum 富山市ガラス美術館

報道関係のお問合せ先

富山市ガラス美術館
Tel 076-461-3100　Fax 076-461-3310　E-mail bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp（代表）
広報担当：渡辺、小谷　　展覧会担当：高橋

広報用画像の貸出しについて

p.1、5〜7、9 の画像 1〜13 を広報用に貸出します。ご希望の方は、p.11 の画像貸出し申請書の使用条件をご確認の上、メールまたは Fax にて上記の美術館広報担当へ申請書をお送りください。

年　月　日

（宛先）富山市ガラス美術館長

担当者：
Ｔｅｌ：
Ｆａｘ：
E-mail：
住所：
団体名：

富山市ガラス美術館　画像貸出し申請書

次のとおり、掲載用素材として企画展「回顧展：大平 洋一　ヴェネツィアン・グラスの彼方へ」の画像を申し込みます。

1. 掲載（放映）媒体名：

2. 媒体種別：TV　新聞　雑誌　フリーペーパー　電子書籍　WEB サイト　携帯媒体
その他（　　）

3. 掲載の趣旨
別紙のとおり（媒体資料を添付してください）

4. 掲載（放映）日時：

5. ご希望の画像番号：

○ 画像は原則、全図でご使用ください。トリミング、部分使用、縦横比の変更、文字のせはご遠慮ください。
○ 画像掲出には別途指定するキャプションを必ず入れてください。
○ 展覧会広報のみにご使用ください。他の目的でのご使用は固くお断りいたします。
○ 商品のＰＲ等の商業利用に関しては画像の提供は出来ません。
○ 画像の２次使用はご遠慮ください。
※画像が使用できる期間は展覧会期間内のみとなります。
※同一記事の再掲載や再放送等については再申請が必要となります。
○ 校正ゲラの段階で情報の確認をさせてください。
○ 記事が掲載された場合は掲載見本（DVD、掲載紙、掲載誌等）を美術館広報担当へご寄贈ください。

申請書送付先：富山市ガラス美術館 広報担当　E-mail: bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp　Fax：076-461-3310

お問合せ
富山市ガラス美術館　〒930-0062 富山県富山市西町 5 番 1 号
Tel 076-461-3100　Fax 076-461-3310
Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp　Web toyama-glass-art-museum.jp